

No. 10

平成16年6月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312

E-mail: sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

## しず老施協

## 巻 頭 言

施設が求める  
理想的な介護者像

静岡県老人福祉施設協議会

副会長 古田孝義



静岡県社会福祉人材センター主催の研修会に出席した人達から聞いた話です。もう十六年前、当園第三代施設長を拝命し四、五年が過ぎた頃のことと記憶に多少不確かなところもあり恐縮ですが紹介させていただきます。

就職した人達がその後施設でどのような評価を受けているか、主には施設長さん方から伺ったことをセンター職員が報告したもので、大別すると三つあったようです。

一つ目は「資格も大切ですが先ず

人柄」です。施設のお年寄りが普段職員に望むこと、それは「どんな立派な大学を出ているかとか、どんな難しい資格をもっているか」ということでなく、朝顔を合わせた時「笑顔で挨拶をしてくれる人」「オムツ交換を気持ちよくやってくれる人」「具合が悪い時親身になってくれる人」など、そんなに難しいことを思っているわけではないのです。

二つ目は「体力」です。講習会とか、一時の思いこみで福祉の仕事に就いても介護の現場は体力勝負です。オムツ交換、入浴介助、車椅子、ベッドへの移乗など介助者には基本的な基礎体力が必要です。また、夜勤もあり時間も不規則なため、より以上にプロとしても自己健康管理が求められます。

三つ目は「知識と技術」があればなお可です。一番大切なことは介護者の人柄・人間性ではありますが、ただそれだけでは本当の意味での良い介護者とは言えません。介助する時に基本的な知識や技術を持っているのといないのでは大きな差が出ます。例えば、人間の身体は精巧にできていて使わない機能は不要なものと感じて使わない機能は起こしませす。反対に片麻痺の人でも介助者が車椅子移乗の際、立ち上がりには患足または健足に負荷をかける技術を応

用できれば、機能を維持もしくはレベルアップが可能です。残存機能の活用は自立支援に繋がる最も大切なことです。

知識と技術は言い換えれば資格に繋がり、資格取得は過程において勉強し結果として自分自身に身につくことになります。

「人格」「体力」「知識と技術」は本来は一体であるべきで、更に「向上心」「共生心」を加えれば正に理想的な介護者像になると思います。

平成三年に静岡県介護福祉士会の初代会長が来園された折、「資格制度ができたことは喜ばしいが、二年間は基礎的なことを学ぶだけです。卒業した学生は資格を取ったら終わりと思っている人が多いが、本当はこれからがスタートなんです。」と学校の講師も務めた会長さんが謙虚に言われた言葉を思い出します。

私は「人柄が良ければ、更に体力も、知識、技術もあれば。向上心も」と思いつつ欲の深い気持ちで面接しています。しかし、近い将来の超高齢社会では介護者不足が深刻となり、応募者が「施設の経営理念を述べろ。個室ユニットの改築計画はどうか」とか、今と反対の立場になつて……こんな贅沢を言えるのは今の内かも知れません。

# 食事サービスの工夫

施設利用者にとって「食」は大変重要なことです。一番の楽しみかもしれません。各施設でいろいろ工夫し取り組んでいますが、その一端をご紹介します。

## 調理職員の目指すもの

丸子の里 管理栄養士

餅田由紀子

丸子の里調理職員の長所の一つに、全員が長期入居者様の顔と名前を一致できるうえに、その人らしさも知っていると言う事があります。それは、私達が目指している、入居者様の食事を作る調理職員から入居者様と一緒に食事を楽しむ調理職員になりたいと思いついて活動してきた結果と言えます。

入居者様にとって三度三度の食事は最大の楽しみだと思います。何を食べたいか、何が好きか、何が嫌いかな等を知る為には、現場で直接入居者様に接し、生の声を聞く事が、一番良いと考えました。調理職員は、自分の作った料理が喜んでいただけただか、安全に食べていただけたか、

又、季節の変わり目には何が食べたか等気になるところです。自分達の主張が出来ない人達には、現場で直接食事介助に関わり、食べ方や表情を観察することによりその適性を知ります。一方元気な方からは、日常の軽い会話の他に、食事について直接お話をさせていただきたく、春夏秋冬に合わせて全調理職員による聞き取り調査を行って嗜好を知る様にしています。

食事を楽しむ為には、ムード作りも大切だと考えました。喫茶や寿司・パン・中華バイキング等企画から買い出しまで他の職員の協力のもとに皆で一緒に楽しむ様に行っております。チャイナドレスを着た職員がウエイトレス姿は利用者様にも大受けで、皆で一緒に楽しんでいる様子がよくわかります。私達も時には売り子から介助側になって皆の会を盛りたてます。

女性にとっての料理作りは昔取っ

た杵柄で、食べ物を扱う楽しみはいくつになってもあるものです。一緒に作って皆で食べる喜びを味わうことが出来る料理クラブは男性利用者様にも喜ばれている活動の一つです。また、少しでも食事に興味を持っていただける様に食事の時に調理職員が現場で今お出している食事の調理法や季節の食材の説明等も行っております。



昨年からの新しい試みとして、入居者様の誕生日の当日にその方の大好きな料理をその方の為にだけ作って差し上げる「誕生日御膳」も始めました。

今から八年前に給食係から食事サービス係と名前を変えましたが、その中には、私達の願いが込められて

いると考えております。これからも「利用者様の笑顔」を求めて、食事作りを通し共に生活を楽しむ姿勢を大切にしていきます。



## 喫茶「すみれ」

富士見が丘いこいの園 施設長

中村幸江

富士見が丘いこいの園は県東部に位置する七十名定員の軽費A型老人ホームです。今回はわが施設の一押しセールスポイントをご紹介します。平成十三年、五月の風薫る頃、わがホームに喫茶「すみれ」がオープンしました。それまで年数回のイベントとして施設の食堂にて行っていた喫茶を、毎週月、水、金の週三回十時から十五時までも営業としたのです。

そのために、これまでクラブ室として使用していた建物を喫茶店らしくおしゃれに改装し、道路側には洒落た木製の案内板もつけました。

特に喫茶店の前庭は、近在の身障者療護施設と田方農高の生徒さんら



のお手伝いにより、色とりどりの季節の花々が咲くテラスガーデンとなっており、そこでの一時が利用者の皆様にとって何よりのリフレッシュの場となっております。

お値段は、いこいの園の利用者、面会者その他の関係者はコーヒー、抹茶、ケーキ等については全品五十円としてきましたが、この四月から八十円に改定させていただくこととなりました。また、地域の皆様にも開放し、広く利用していただくよう地域の皆様には全品百円をお願いし、ここしばらくはこの値段を維持していく考えです。また交通不便な地域性も考慮し、喫茶「すみれ」では、日用雑貨も各種取り揃え、安価にて販売しております。

丹那盆地という自然に恵まれた風光明媚な土地に立つ富士見が丘いこいの園は、地域の皆様にとけ込んでその一員として生活しております。この喫茶「すみれ」もパート職員以外はボランティアといこいの園在園者有志によるお手伝いによって運営されております。

施設臭のない誰でも気軽に利用できる喫茶「すみれ」に皆様も是非立ち寄りください。



## 真空調理法を活用

松崎十字の園 調理師

阿部美代子

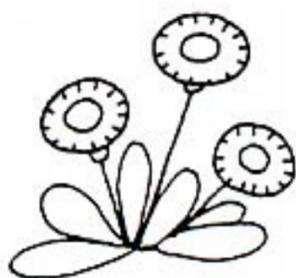
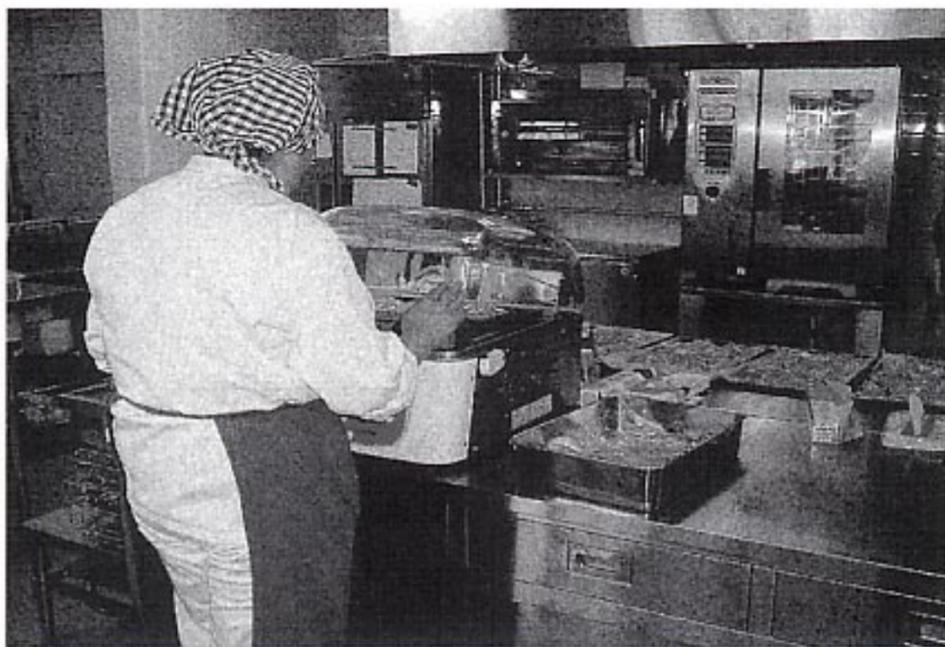
当園は松崎町に平成十四年四月、小規模身障療護施設を特養に併設して開設されました。特養は定員五十名、短期九名の合計五十九名の利用者が二階で四ユニットに分かれて生活をされ、身障施設オリブは定員二十名、短期二名の合計二十二名が一階にて生活されています。通所事業は、高齢者が定員二十名、身障者の定員五名で昼食の全食数は約百食になります。

高齢者施設はユニットケアを取り入れた生活を行い、身障施設も併設されている中で、利用者の生活の場が分かれ、年齢、障害も多様化しており、食事においても美味しくて安全性の高い食事が求められ、経費の面からも真空調理法を開設時から取り入れました。

真空調理法は、専用のフィルムを使いそれに素材と調味液を加え真空包装機で内部を真空状態にして、素材に合わせた温度帯で加熱し必要な時に再加熱して使用する調理法で、味の染み込みがよく、素材を酸化させることなく調理ができ、食中毒防止に対しても有効な調理法です。

真空調理では、一人で百食以上の調理が可能と言われており、当施設でも開設時は栄養士一名、調理師二名で行っていました。しかし、介護現場の食のニーズに対応する必要等があり現在はパート七名を増員して行っています。調理担当者は、慣れない真空調理に不安一杯の毎日ですが、真空調理機の中を生卵だらけにしてしまったり、野菜の煮物の味が決まらず苦味が出てしまい「まずい」と言われ悩み下処理の大切さが身にしみたりと勉強の日々です。その中でも、素材を焦がすこともなく安心して同じ料理が提供できフィルムを開けると色・香りの良さに感動があり

素材の持っている物を最大限に生かしてくる調理法のひとつだと思います。今後は、献立の種類を増やし利用者のニーズに応えるよう個々にパックを行い、食を通じて生きる喜びがあるようにしていきたいと思っております。



静岡県老人福祉施設協議会 21世紀委員会

## 在宅版 介護レポートコンテスト

「新しい介護の取り組み」「認めて欲しい介護下現場の現状」など

21世紀委員会が平成15年度に募集した「介護レポートコンテスト（在宅版）」で表彰を受けた方々にその概要を投稿していただきました。

### 最優秀賞

#### 「脱集団プログラム」

##### 個別プログラムへの取り組み

小鹿苑デイサービスセンター

増田 信

集団プログラムでは多様な利用者ニーズに対応することが出来ない。例えば、手芸や工作を行ったり、ルールが複雑なゲームを行った場合、痴呆を有する方は時間を持て余してしまうことが多く徘徊の原因にも繋がってしまうことが多く徘徊の原因にも繋がってしまうがちである。また、難易度の高い手芸・工作を行えばADLの重度の方には諦めの感情を抱かせてしまうこともある。逆に難易度の低いものを行えば自立に近い方には物足りなさを感じさせてしまうことになる。そして、作品作りの場合は準備や実施が大変なばかりか作品

の管理も困難となることさえある。そこでこのような課題を解決するため、プログラムを集団的なものからクラブ制へと変更することとした。クラブ活動実施にあたっての目標は、利用者の主体性を尊重すること。選択の幅を広げること。リハビリ効果を生むために継続性を持つこと。自発性に欠けるADLの重度の方や痴呆を有する方にとって効果のあるデイサービスとなること。準備や実施にかかる負担を軽減し、利用者と共に過ごせる時間を確保することである。

クラブ活動を実施するにあたっては、まずこれまでのプログラムを見直すことから始めた。そして、利用者がどのようなものを望み、どのようなプログラムに対して積極的な参加が見られているのかをリサーチした。そして、その後は職員に対して研修会を行った。更に平成15年4月

からの開始に合わせ担当者、記録用紙、具体的な活動内容、材料等の準備を行った。

クラブ活動制としたことで課題として挙げられた事がクリアできた上



### 優秀賞

#### 食事を楽しく

カリタス21

デイサービスセンター

増井 美佳

##### 【食事の現状における問題点】

食事は職員が配る為利用者が食堂へ移動するとテーブルには既に自分の食事が一式揃っており、利用者はお客様状態。また、おかわりやお茶が欲しい時は職員を呼ぶ為、利用者の訴えに応え職員は食堂内を走り回っている。

##### 【食事の理想】

生活リハビリの観点から自分で出

に、時間的な余裕から今まで見えなかった利用者の潜在的な能力をも垣間見る事ができた。定員が35名のデイサービスにおいて来苑時から個別活動を実施しては、35名ならではのものを体験できないため一概に個別活動が優れているとは言えないが、一日の中で一時間だけでも個別活動の時間を設ける事はおいに効果的な事であると思われる。

来る事は自分で行く。食事は楽しく、ゆったりとした時間の中で摂って頂きたい。

### 【取り組みとその効果】

お茶・ご飯・汁物をつけて頂く。各テーブルに急須とお櫃と鍋を用意し、そこから各自食べたい量をよそう。次第にテーブルごと「〇〇さん ご飯はどの位よそう？」等のコミュニケーションが生まれ始める。副食を職員と一緒に配膳する。その日の利用者の中から1〜2名食堂準備の担当者を決め、職員と一緒に全テーブルにおかずを配る。担当になると



皆張り切って手伝いをして下さる。食事の片付けを手伝って頂く。各テ

ーブルごとに残飯入れを用意。自分の食べ残した物を入れ、食器を重ね、運べる人が下膳する。

### 【食事を通して見えてきたこと】

食事時間が和気あいあいとしてきた。利用者同士助け合いの心が芽生え、ただのお客様から一緒に時間を過ごす仲間になってきた。

以上のような「食事を楽しく」の取り組みを通してデイの雰囲気や利用者同士の関わりも少しずつ変わってきている。今後も体操・リハビリ運動等の機能訓練と並行して食事・入浴・排泄等でも出来ることは自分で行い、生活リハビリの面も重視して行きたい。

## 優秀賞

### 「デイサービスにおけるリスクマネジメント」への取り組み

一空園デイサービスセンター

稲垣いつ子

### 【現状における課題】

痴呆症状として行動障害（徘徊）のある利用者がホリデイに集中し、職員は見守りをしなくてはいけなく

なり、それらの利用者に係りきりとなった。そのため他の利用者にも目が行き届かなくなりサービス提供に支障が出た。

### 【課題解決のために掲げた目標】

全ての利用者に必要なサービス提供が出来る様、ケアの見直しをする。

### 【取り組みにおける経過】

一日の業務分担の中に痴呆症状のある利用者の見守り担当を配置した。しかし、対象利用者が複数になることにより、見守り職員数も複数必要となった。

そこで、家族に了解を得て徘徊センサーを活用することとなったが、昼食の準備、手洗いへの移動の際、職員の目が離れ無断外出になってしまった。

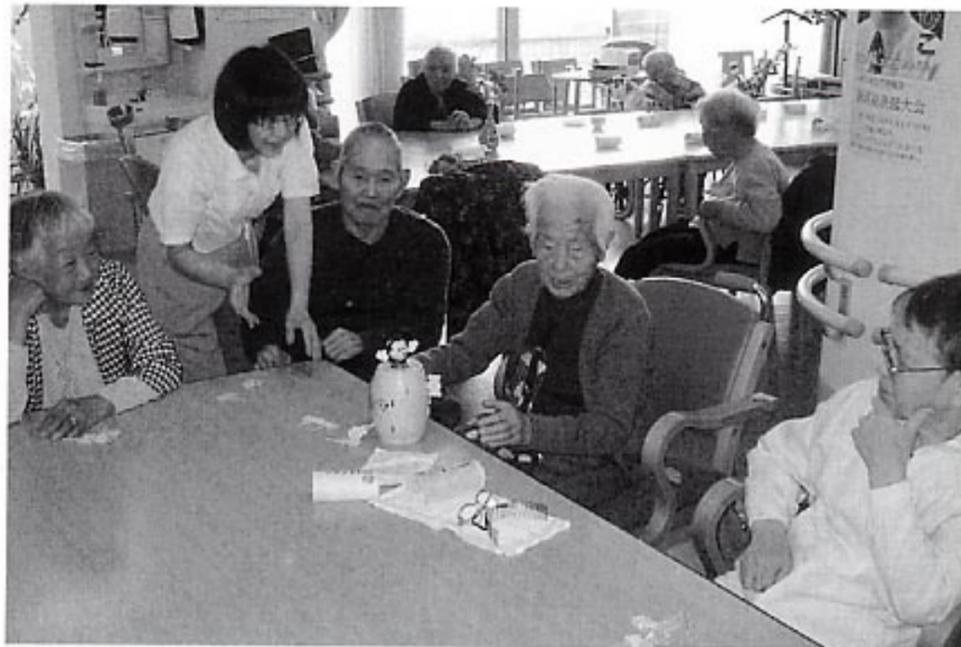
継続的により少ない職員数で対応出来るケアの見直しを検討した。結果、痴呆症状のある利用者をグループ化し、1つのテーブルで1人の職員がケアすることとした。担当職員は、継続性を持たせるよう午前と午後で引き継ぐ様にした。また、担当は、ケアの内容・様子・反省・評価を記録した。

### 【取り組みに対する結果】

グループケアは1つにまとまっていたので対応しやすく、利用者の様子がよく見えるようになった。また、一人の職員だけで対応できたので他

の職員は全ての利用者にも目を配れ、サービス提供の支障が減少した。

しかし、グループの分け方にも再検討の必要ありと考える。痴呆症状のある利用者のみではなく、話し相手となってくれる利用者と同席にする等、今後の課題である。



## お知らせ

6月には、施設版介護レポートコンテンツを実施致します。応募要綱など詳細は、別に発送致します文書にてお知らせ致します。

# 我が施設のユニーク行事

## 参道は登りが険しいが ～参拝クラブ

当地には、東海の名刹「奥山方廣寺・半僧坊」が近くにあり、入所のお年よりは毎月1日と15日には、半僧坊への参拝をかかさず実施しています。参加は、23名位のお年よりで、2km程の道程を約1時間半程かけて往復しています。参道は登りが険しく大変ですが、皆ご利益を求めて必死に上り、費銭を投じてお参りしてきます。帰り道には買物をしてくれるのが、楽しい参拝クラブです。

(養護・奥山老人ホーム)



## 動植物公園へ ～春の恒例遠足

毎年恒例となっている春の遠足は「豊橋市総合動植物公園」へ出掛けます。5月の日曜日、午前10時に苑を出発。五月晴れの中、約20名が2台のバスに分乗して片道25分のドライブを楽しみながら目的地に向かいます。公園の入口で待ち合わせたご家族、ボランティアの皆さんと一緒に総勢約60名となり、公園内をコースに沿って見学。

沢山の薔薇の花が満開でとても美しく印象的。お昼は「憩いの広場」で食事休憩。心配した粥限定の方々も柔らかめのお弁当をきれいに召し上がっていただけます。午後からはキリン、カバ、象などの動物園を見学。午後2時30分、ご家族と別れ、苑に向けて公園を後にします。

(特養・光湖苑)



## 21世紀委員会報告

平成十六年一月二十二日(木)に行われた「JALアカデミー接客マナー研修」が、お陰様をもちまして大変好評の内に修了し、アンケート調査の結果(新しい発見があった97%、参考になった98%、今後も継続を希望する92%)参加者の皆様からこのような大変高い評価を得ることができました。

今後も、皆様のご意見を参考にし、より良い研修を実施してまいります。七月末に「第二回異業種講師研修会(新人研修)」を計画しています。

## 県老施協役員

(任期：平成十六年四月一日)

十八年三月三十一日)

会長 仲亀透

副会長 木下朝子、三重野隆志

古田孝義

理事 土屋忠儀、若林芳和

石川三義、斉藤文彦

奥津匡俊、八木儀一

牧野春夫、奥川辰次

秋山通、望月京子

有馬良建、山田英俊

宮地彬、牧野務

水谷猛、種岡養一

栗野裕治、小澤優

松井利明、藤森達芳

常務理事 鈴木清司

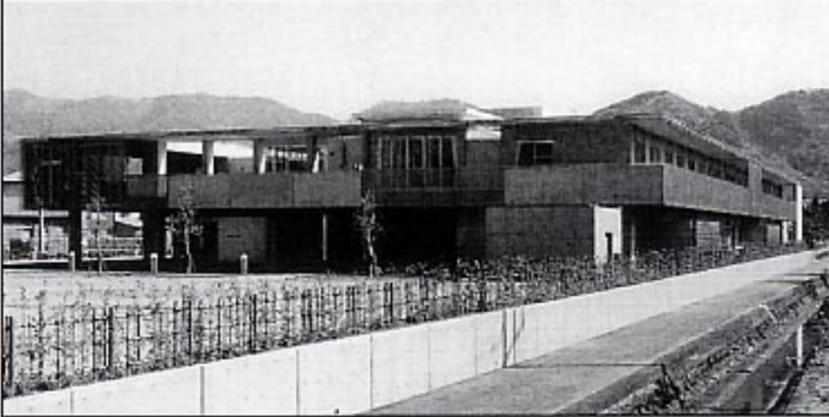
監事 牧田義久、大城一二

# 新加入施設紹介

平成16年3月1日現在

## 特別養護老人ホーム 松崎十字の園

平成14年4月1日開設  
賀茂郡松崎町江奈157  
入所定員 50名



## 特別養護老人ホーム 炉暖の郷

平成15年8月15日開設  
沼津市足高字尾上24-24  
入所定員 70名



## 特別養護老人ホーム ヴィラージュ富士

平成15年11月1日開設  
富士市厚原359-8  
入所定員 80名



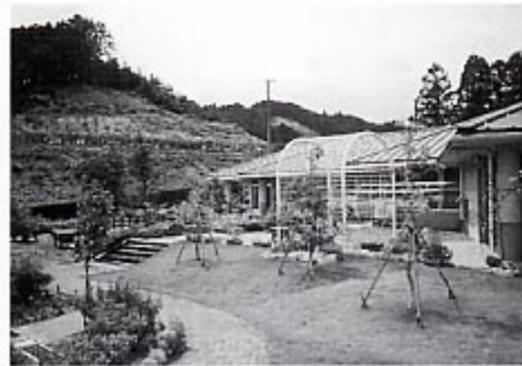
## 特別養護老人ホーム 愛華の郷

平成15年10月1日開設  
藤枝市大東町58  
入所定員 70名



## ケアガーデン紹介

## ～いなさ愛光園～



平成十三年四月に開設したグループホーム（痴呆型デイサービス併設）に設置した庭『ケアガーデン』です。地域のボランティアと共に触れ合うことで癒しとやすらぎを得て心身の健康回復の助けとなるような緑空間を目指して作りました。

庭を三つのゾーンに分け、利用者・家族がティーパーティーを楽しめるような「集いの庭」、車椅子の方も楽しめる立ち上がり式花壇をはじめ四季折々に楽しめる「花見の庭」、種まきから収穫まで共に楽しむ野菜畑、イチジク・ぶどう等の果樹園「収穫の庭」としています。園芸担当職員を配置し、園芸療法らしきものにも取り組み始めたところです。

# 部会等報告

## 県老施協

★総会 十六年三月二十六日、静岡商工会議所会館で開催され平成十六年度事業計画並びに収支予算(案)が原案どおり可決されました。また、役員改選が行われ、仲亀透会長が再選され、副会長には木下朝子東部支部長、三重野隆志中部支部長、古田孝義西部支部長が選出されました。

なお、同総会に先立ち、二十一世紀委員会介護レポートコンテストの表彰が行われました。

(役員の詳細は六ページ)

★理事会 十六年四月二十八日、県総合社会福祉会館で開催され十五年度事業報告並びに収支決算報告、各委員会委員の委嘱等が行われました。

企画調査研修委員会は委員長に三重野隆志副会長、副委員長に奥津匡俊理事・宮地彬理事が、経営対策委員会は委員長に牧野務理事、副委員長に都築英樹理事・山田英俊理事、21世紀委員会は委員長に栗野裕治理事、副委員長に種

岡養一理事・木下晋一委員・澤田彰宏委員・峰野政博委員となりました。

## 特養部会

★理事会・総会 十六年四月二十三日及び五月十日に理事会、五月二十四日に総会が開催され、新部長に石川三義あしたかホーム施設長が選出されました。

また、十五年度事業・決算が承認され、十六年度は研修事業(施設長三回、職員三回)、アンケートの実施などの事業計画及び予算案が了承されました。

## 軽費部会

★緊急総会等 十六年一月二十六日、県総合社会福祉会館にて事務費補助金の一般財源化について緊急会議を開催しました。

二月二十日、代表六名で県知事へ要望書(一般財源化に伴う諸問題について)を提出しました。

新役員は部会長に木下朝子玉沢昭寿園施設長、副部会長に玉田直文ラポール駿河施設長を選出しました。

# 事務局スタッフ紹介

◆鈴木清司 (常務理事・事務局長)  
老施協二年目です。今後とも協議会運営に対する暖かいご支援をよろしく願います。

◆一條光雄  
本年四月からお世話になりました。一條です。微力ですが精一杯努めますのでよろしく願います。

◆神谷洋子  
早いもので今年も半年が過ぎてしまいました。残りの日々も全力投球で頑張りますのでよろしく願います。

※望月奎典さんは本年三月末で退職されました。六年間老施協のために尽力いただきました。御礼申し上げます。



# ◆全国老施協予定◆

○全国老人福祉施設大会  
日程 十月十九日～二十一日  
会場 宮崎市内

○関東ブロック  
カントリーミーティング  
日程 十一月十五日～十六日  
会場 静岡市内

○関東ブロック  
老人福祉施設研究総会  
日程 十月六日～七日  
会場 茨城県内

# 編集後記

●介護保険制度の大改革の足音が徐々に忍び寄ってまいりました。老施協の全施設が協調し、共に高齢者福祉の未来を守りましょう。しず老施協も情報共有の一助になるよう頑張ります。

●ハード・ソフト両面から個別対応できるように体制を整えなければなりません。更に重要なことは意識面です。今回の特集「食」の面での真空調理法などは大いに参考になると思います。

(隆)